

第9回香川・高知両県知事会議

開催日：令和7年4月16日（水）16:10～17:10

開催場所：セリーズ 2階コーラルホール
(高知県高知市)

1 開会（高知県総合企画部長）

ただいまから「第9回高知・香川両県知事会議」を開催いたします。

本日、進行役を務めさせていただきます高知県総合企画部長の松岡でございます。よろしく願いいたします。

開会に当たりまして、高知県知事からご挨拶を申し上げます。

2 開会挨拶（高知県知事）

○ 濱田知事

それではひと言ご挨拶を申し上げたいと存じます。

本日は恒例の高知県香川県両県の知事会議を開催いたしましたところ、池田知事をはじめといたしまして、香川県の皆様方にはご多用中のところ高知までご足労いただきまして本当にありがとうございました。

この知事会議も今回で9回目の開催となります。両県が抱えております課題でありましたり、県政上の今後の展望につきまして、意見交換を率直に行うことができる大変有意義な会議ということで定着していると思います。

本日も、今喫緊の課題であります人口減少の問題であったり、南海トラフ地震対策でありましたり、四国の交通ネットワーク、さらには観光面での連携、こういったところも含めまして、幅広い課題につきまして闊達な意見交換をさせていただければありがたいと存じます。

ちょうど今、本県の話は、今日もご覧いただきましたけれども先月の末から朝ドラで「あんぱん」といいまして、やなせたかし先生・暢さんのご夫妻をモデルとしたドラマが始まっておりまして、それに合わせましてやなせ先生のゆかりの地を巡るスタンプラリーなどを本県では企画いたしまして、関連市町村では、ご覧いただきました香美市などを含め地域での観光博覧会なども開催いただきまして、この千載一遇の機会に観光の起爆剤としての役割を期待申し上げているところでございます。

本日は、リニューアルしたばかりの香美市立やなせたかし記念館もご覧いただきましたけれども、改めまして、やなせ先生はアンパンマンの生みの親ということで一番知られておりますけれども、詩人であったりイラストレーターであったり、非常にマルチな才能をお持ちの芸術家、文化人であるということを私自身、再認識させていただきまして、県内で多くのキャラクターたちが活躍をしております。

館内では、そこでしか見られないような貴重な資料もご覧いただきましたが、お楽しみいただけましたら幸いです。

また、ＪＲ四国で運行いただいておりますアンパンマン列車も今年で２５周年と記念すべき年になりまして、池田知事には早速おいでいただきましたけれども、こうした機会にぜひ香川県の皆さんにも高知を訪れていただきまして、このやなせ先生のふるさと高知ということで魅力をご体感いただく機会となれば大変ありがたいと存じます。

また、本日の意見交換の中身は今後、四国知事会議や夏の全国知事会議でありましたり、こういったところで様々な意見交換を行うためのベースになっていくという思いもございまして、それに先立ち、本当に率直な意見交換をさせていただく貴重な場になればと思っております。

限られた時間ではございますけれども、池田知事にはどうか忌憚のないご意見、またご指導いただきまして、よりよい形で国への政策提言ができますようにお力添えをいただければありがたいと思います。今日はよろしくお願い申し上げます。

○ 司会

続きまして、香川県の池田知事からご挨拶をお願いいたします。

○ 池田知事

今日は、高知県の濱田知事をはじめ、県庁の皆様にはこのような機会をお作りいただきまして誠にありがとうございます。また今日は、皆様に大変温かく、香川県の私以下職員をお迎えいただきまして、感謝を申し上げます。ありがとうございます。

香川から来る道中、香美市に至るまでの南国インターからの道のりも高知の非常に高知らしい風景を見ながら参りまして、大変リフレッシュし、また元気をいただきました。

また、先ほどご案内いただきました、やなせたかしさんのアンパンマンミュージアムですけれども、中身もいろいろ、私の知らないことも多かったです。展示の仕方ですとか建物のリニューアルの方法ですとか、いろいろな工夫がたくさんあり、大変学ぶところが多くございました。

一昨年、高知でこの会議を設営していただいたときには、牧野博士の植物園をお見せいただきまして、あのときも植物園の植物の展示方法や周遊の作り方などいろいろ勉強になりまして、香川にもああいった規模のものにはまだまだならないんですけども、高松空港のちょうど北側にもともと県が花の研究をしていた場所がありまして、そこが、花は見られるんですが、なかなか見やすいというか、興味を持って見られるような施設になっていなかったものですから、牧野植物園を少し参考にしながら改修を始めてまして、まだまだですが少しずつお花の見せ方とか周遊の仕方を充実していきたいと思えます。

今日もミュージアムを参考にさせていただいて、いろんなものをリニューアルしたい

と思いますし、今日、リニューアル早々のものを見せていただきまして、今、私も毎朝ドラマを見てますけれども、香川県民も、やなせたかし先生に対しての関心が大いに高まっているところがございますので、戻りましたらしっかりと県民の皆さんにもPRをしてまいりたいと考えております。

話が変わりますけども、高知と香川は、海で言っても太平洋と瀬戸内海というかなり特色が違う自然環境がありますが、一方で、今知事がおっしゃいましたように人口減少のことですとか南海トラフ地震の際の備えですとか共通に考えていかなければならない課題、そして観光のことなど一緒に取り組んでいくと効果が大きいテーマがたくさんありますので、今日のような会議をできるだけ重ねていろいろな連携ができればと考えております。

お互いの特色を生かしながら、一方で、県境を越えて連携して、強い四国ができますように取り組みたいと思いますので、引き続きいろいろなことでご指導もいただきたいし連携の方もお願いいたします。

今日もその一步になれるような会議にしたいと思いますので何卒よろしくお願いをいたします。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

○ 司会

ありがとうございました。それではこれより意見交換に入らせていただきます。

なお、本日の日程といたしましては、17時10分まで意見交換及び両県PRの時間とさせていただきます、その後、17時25分まで共同記者会見の時間を設ける予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以降は、開催県の濱田知事の進行により意見交換をお願いいたします。

3 意見交換

(1) 人口減少対策について

○ 濱田知事

人口減少の問題は日本全体の国家的な課題でありますと同時に、地方におきましても、過疎化の進行であつたり地域経済の停滞、こういった問題を招いておりまして、まさに将来を左右する最重要課題であると言っても過言ではないと考えております。

本県におきましては、昨年3月にこの人口減少対策のマスタープランといたしまして、高知県元気な未来創造戦略という名前の計画を策定いたしました。

いわゆる、まち・ひと・しごと創生総合戦略のリニューアル版ということでもありますけれども、令和9年、4、5年後をターゲットに、若年人口の減少に歯止めをかけるということを取り組みを進めております。

ただ、初年度となりました昨年のデータはなかなか苦戦をしておりまして、昨年令和6年の県内の出生数、赤ちゃんの生まれた数が3,123人とまたまた過去最低を更新して

しまい、少子化の傾向に歯どめをかけるに至っておりません。

今年度は、いろいろな施策をさらに強化しようということで、例えば若者所得の向上、あるいは「共働き・共育て」の県民運動をさらに進めていくといったような4本の柱を立てまして、施策の強化をしようとしております。

また、新たにいわゆるスマートシュリンクという考え方を入れていこうということで、賢く縮むということでいろいろご意見もあるんですけれども、「Smart Shrink for Sustainable Society」の頭文字を取って4つのSが並ぶということで4 Sプロジェクト、持続可能な社会へ向けてのプロジェクトというような取り組みも、人口減少への適応策として必要ではないかというような提唱もさせていただいております。

具体的には、昨今、特に人材不足がありまして、いろんな公共サービスの提供体制の維持が難しくなっているということで、県内の消防も県域全体で一本化してはどうかという問題提起をし、検討を始めましたり、県立の高等学校も特に中山間の過疎地域では、小規模になっていく中でこれを再編して特色ある学校づくりをしていくといったようなことが代表例でありますけれども、人口減少に合わせまして、例えば今、重複してサービスが行われている部分はこの重複を解消して、そういう意味で規模は縮小はしていくということにはなりますけれども、本当に必要なサービスはむしろ充実をさせていくというような形で持続可能な社会を実現していく、そして県民生活の質の向上を目指すといった取り組みも始めております。

本県の場合も、全国に先駆けて人口減少が進んでいるということもありますので、そういった意味で全国に先駆けたいろいろな取り組みを、社会実験のようなことも含めて挑戦をしていくことにも必然性があるのが高知県の現状だと思っております、心意気といたしましてはそうしたことを通じて全国の公共サービス改革をリードできるように取り組みにチャレンジしたいということで、今取り組みを始めております。

そうした取り組みも含めまして、例えば、全県1つという意味では香川県さんは上水道の供給体制を県で一本化されているということでございまして、本県はまだそこまではいきませんが、やはり耐震化を進めていく中では体制強化をしていかないと進められないのではないかという思いを持っておりまして、両県でそういった先進的な優良事例の情報交換をさせていただきながら、お知恵を出し合う形で人口減少にうまく適応していく、そして持続可能な社会をつくっていくということができればありがたいと思っております。

また、そうした地方の努力は別にいたしまして、やはり人口減少の問題は地方の努力だけでは解決ができない。国の施策として、国の責任でしっかりと対策をとっていただくということが必要な部分も大きいというのは事実だと思ひまして、こうした点は各県で、地方で力を合わせて国に働きかけることが必要なんじゃないかと思っております。

今、私どもとしましては、そうした3つの観点から、国全体の社会経済構造を変えていくことを国にしっかりと取り組んでいただくということを促していかないといけない

のではないかと考えております。

1つは働き方の改革でして、男性育休の取得促進なんかをやっておりますが、社会全体が長時間労働に依存するような体制が続いておりますと「共働き・共育て」で出生率を上げていくというような取り組みも限界があると思いますので、働き方改革で労働時間を全体として短縮していく、そんな社会に転換していくということを国の経済政策、社会政策としても、さらに加速していただく必要があるのではないかという思いがございます。

2つ目は経済構造、経済成長策といたしましても、ここのところのデフレ型経済の中で、日本経済が最近では組織が一枚岩となってコストカットして利益を上げていくというところに執心してきた感があります。その結果、非正規労働者が増え、人への投資が怠られてきたんじゃないかというような反省は政府自身もおっしゃっていることだと思いますが、人への投資によって多様な価値を大事にしていくことで新しいイノベーションを起こして、コストカットではなくて収入を上げていくという高付加価値型の経済に移行していくということに国には取り組んでいただき始めていると思いますが、さらに強力に取り組んでいただかないと少子化社会からの転換というのは難しいんじゃないかという思いがございます。

そして3つ目が、国土政策におきまして大企業や大学、さらには政府関係機関、こういった大都市機能の地方分散を進めていくと。大都市に今、必要なのは多分ゆとりではないかと思います。これを大都市に与えるとともに、地方に足りないのが活力だと思いますので、地方には活力を与える。そうした大都市機能の地方分散のための国土政策をやっていくということが、ゆとりのある働き方を都会でも実現していく、国土の多様性を背景として新しい価値を生み出す経済構造に日本全体を変えていくというようなことを進めていくという意味でこの3つの改革を国が一体で後押しして進めていくということが今大事な局面ではないかなと考えております。

こうした経済社会の構造転換とあわせまして、例えば医療費や保育、教育費、こういった基幹的な子育てサービスについては、全国一律の水準で経済的な支援を展開していくといったことを国にしっかり果たしていただくということですとか、経済的支援に今、地域差が出始めている根源となっております地方の税源が偏って大都市部が非常に豊かな地方税源を利用しているというこの偏在是正がまた新たに必要になっているのではないかな。こういった問題意識につきましても、国に政策提言を行いたいということで今いろんな準備を進めているところでありまして、こうした政策提言につきまして、ぜひ、香川県さんの方でもご検討いただいて、国に対して訴えかけていける部分については一緒に取り組みができればありがたいと考えております。

以上、申し上げましたけれども、こうした点について、池田知事の方からもしお考えございましたらお話をいただければ幸いです。

○ 池田知事

ありがとうございます。今、人口減少に関係していくつかのお話がありました。

まず、一部事務組合的なお話、消防の広域化とかのお話がありまして、これまでも一部事務組合の形でゴミとかをやってきたところはあると思うんですけども、人口減少が避けられない状況の中で、これまで市町個別にやってきた事務を広域でできないか、もう一段階考えていく時にあるのかなと濱田知事のお話を聞きながら改めて思いました。

そして香川県はおっしゃっていただいたように、水道はですね、地形的に県土全体が非常にコンパクトであるとか、高知のお水をいただいている香川用水が水道の大きな水源であるということもあって一元化をしております、こういった自分たちで先行的に進めた分野も踏まえながら、今お話のあった消防のこととか、もう一歩考えていく必要があるかと思います。こういったものが円滑に進むような国の助成の政策についてもまたご相談しながら一緒に要望もしていきたいと考えております。

それからいろんな国土政策のお話がありました。日本の長い発展を考えると、今の一極集中といいますか、大都市に集まっていく国土政策というのはあまり長続きしないんじゃないかなと。短期的に見ると集まってやっていくというのが一見良さそうに見えますけれども、長い目で見るとそれによって失われる国土の部分がどんどん増えるということは、国土で生まれる果実といいますか、力をみすみす逃してしまうことになるので、100年までいかなくても長い単位で考えると日本の発展のためにはならない。国土全体を生かしながら発展を考えるということが長い発展につながると思っております。

そして、香川も高知もそうかも知れませんが、地方が力を発揮できる分野というのは大きい意味でものづくり。農業、水産業、林業も含めた製造業、一次産業、二次産業、こういうところは、土地があるとかいろんな意味で、大都市にはないベーシックなところを代表にして、力の発揮のしどころがあるんじゃないかなというふうに思います。農業、第一次産業について言っても、食料自給率の問題も出てきて、きちっとしないといけないという国策もあります。それから、第二次産業についても、これまで外へ生産拠点を移して、結果的に国内が空洞化している問題ですとか、コロナの時のマスクの問題ですとか、いわゆるモノを外に全部頼ると、いざというときに国民生活が守れないこともあって、こちら国内でっていう動きもありますので、うまくそういう政策と歩調が合うところもあると思っています。そういう中で、農林水産業も製造業にもさらに力を入れ、そういう拠点を地方に築いていく。それを国がさらに今以上に旗を振って、濱田知事もおっしゃった企業の地方移転などの後押しももっともっと日本の将来のために、地方にもう少し分散して投資しないといけないということを明確に打ち出して進めていくといったことも、濱田知事と力を合わせて訴えていきたいと思います。また、訴えるだけではなく自らのところで基盤づくりをしっかりとしていかなければいけないかなというふうに思います。

それから、医療や保育、子育てに関しての国のベーシックな部分の一律の政策ですね、これはもうまさにその通りで、地方で競争してるようなことでは本当はよくないと思います。今、医療についても、香川県でも高校までの医療費の無料化をやってますけれども、早くそういうものは国の方で一律無償ということで揃えていただきたいと思いますし、保育士の処遇の問題ですとか、まだまだ全体として、国としてレベルを上げていかないといけない部分が多いと思いますので、そういったことをさらに一緒に要望させていただければと思います。

それから医療について言うと、いわゆる公立病院の運営が、これから人口が減り患者が減りという中で厳しくなる。香川県内もそういうところが顕著になってきてるんですけども、もちろん人口減少に伴って、そういう公立病院の規模の見直しというのは必要だと思うのですが、やはり医療ですから特に公立病院は最後の砦の役割もあるのでどうしても一定の費用がかかる部分があって、それをいかに維持していくかというのは、日本全体で住んでいくためには、国策として必要な部分があると思うので、今以上の国の支援を全体として考えていただかないといけないのかなと思っております。

この辺も、ぜひ共有させていただき、一緒に要望していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

○ 濱田知事

お話のありました医療の話なんかは、特にコロナ後の地域医療構想を今練り直している中で、おっしゃったような課題があると思いますので、そういった話も含めてぜひ、一緒に国に対して訴えかけできる部分をさせていただければというふうに思います。ありがとうございます。

続きまして2番目の議題の南海トラフ地震対策についてでございますが、このテーマは池田知事の方から口火を切っていただければというふうに思います。

（２）南海トラフ地震対策について

○ 池田知事

私の方からは、南海トラフ地震対策を代表とする防災への備え、国土強靱化という観点でお話をさせていただきます。

この防災の備えの中で一番大事になっている国全体の政策で国土強靱化の政策があります。この国土強靱化の中期計画というものを法定で作ることになったわけですが、ようやく3月31日に素案が出てまいりまして、濱田知事も含めて、一緒に全国から、前回の計画を上回る総額の確保を政府に要望しておりましたが、今後5年間で概ね20兆円強程度を目途に、今後の資材価格、人件費高騰などの影響については、それぞれの毎年の予算編成過程の中で適切に反映するという素案が示されました。我々、20兆円を超えるものが必要だということを強く要望しておりましたので、一定の内容

にはなっているかというふうに思っております。

今後は、今の資材高騰、人件費の高騰、こういったものがかなり急でありますので、まずは今年想定される令和7年度の補正予算が第1弾になるかと思えますけれども、そういう段階ですと、前年度同程度では事業規模としては下がることになりますので、資材高や人件費の増を踏まえた全体の規模確保、これがこれから大事になってまいりますので、引き続きこの中期計画の最終版のまとめにおいてもですね、今の資材価格、人件費高騰の影響をしっかりと踏まえたものにするように、引き続き強調して要望させていただくようなことをお願いできればと思います。

それからこういった国費の助成と並行してですね、緊急自然災害防止対策事業ですとか、緊急防災・減災事業という起債ができる事業制度、これも、令和7年度までの時限で起債の措置が切られてますので、これはもう国の助成制度とともに重要な起債制度です。令和8年度以降も延長するようにしっかりと要望していきたいと思っておりますので、こちらについても夏の来年度要望については、強調した要望をお願いしたいと思っております。以上でございます。

○ 濱田知事

ありがとうございました。

今、池田知事からお話あった部分は全く同感でございまして、ぜひ一緒になって取り組みをさせていただければというふうに思います。

その前提となります南海トラフ地震対策に関して言いますと、先月末に国の新しい被害想定が出まして、一言で言いますと、試算の前提条件が10年ほど前よりかなり厳しくなっているということがございます。高知県でも想定していた負傷者数が倍増するという大変厳しい試算が出ておりますので、医療救護体制なども含めて、災害に強いインフラ整備といったことをさらに強化・加速しないといけないという状況だと思いますので、お話がありましたような形で国土強靱化の財源の大元のところを決める中期計画について、まず必要な規模の財源の確保を図っていくということが本当に大事なポイントだと思います。

今お話ありました20兆円強、今の5か年の15兆円程度の事業費がいわばミニマムラインということで、お話ありましたような資材費高騰とか、やはり我々としては今の南海トラフ地震対策を考えますと、実質的に加速ができるような規模が是非とも必要だと思っております。例えば県内の緊急輸送道路の整備ペースを今10年かかるところを5年でということを考えますと、今まで補正予算でいただいていた予算を1.5倍ぐらいにしないと、加速ができないかなというふうな試算も本県独自にもしておりますので、そういう意味で20兆円強を最低ラインでさらに上積みできるような中期計画にさせていただくということ、そして具体的な制度の中では、時期を合わせて制度化されてますいわゆる緊防債といった有利な地方債制度、これも期間の延長を図っていただくことは我々も是

非とも必要だと思っておりますので、これらの制度延長についてもぜひ一緒になって国への働きかけをさせていただきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

（３）四国地方の高速交通ネットワークの整備促進について

○ 濱田知事

続きまして、３点目に移りたいと思います。四国地方の高速交通ネットワークの整備についてということでございます。これは僭越ながらまた私の方からお話をさせていただきたいと思っております。

まず、いわゆる高規格道路の四国８の字ネットワーク、これは経済の活性化、それから災害時の交通の確保の命の道という意味でも非常に不可欠な社会基盤というふうに思っております。本年２月には高知県内でのいわゆる北川道路のトンネル区間の開通、そして３月には待望の高知東部自動車道の高知龍馬空港と香南のいち間の開通となりまして、東部が高知自動車道と直結すると。これで８の字ネットワークの高知県内の整備率は６３％になりました。香川県さんの方は１００％いってますので、高知県が足を引っ張ってるので何とか追いつこうということでございますが、特に東部の観光施設に香川県からもおいでいただく時に大変足回りが良くなったということで、観光面での効果も期待しているところでございます。

そういう意味でこの８の字ネットワークの早期整備が是非とも必要だというふうに思っております。引き続き四国４県合同の提言活動にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。

事業未着手が特に徳島の南部で残っているということもありまして、県東部から京阪神へのアクセスを考えますと、そういった地域でも早く事業化していただいて、一時も早い開通をしていくということが今後の経済効果、あるいは防災の面で非常に大きな意味があるということで、道路行政に精通されております池田知事のご指導ご助言もいただきながら是非とも頑張っていきたいと思っておりますし、全国高速道路建設協議会の副会長というお役目もいただいておりますので、この点しっかり汗かいて頑張りたいと思っております。どうか引き続きのご指導ご助言をお願いできればというふうに存じます。

池田知事の方から何かございましたらお話をいただければと思います。

○ 池田知事

ありがとうございます。四国の高速道路の８の字ネットワーク。これはもう１日も早く全通させることが、特に今おっしゃられた高知県内の防災の面でも産業の面でも大切でありますし、四国全体を考えても、観光、産業の面で四国全体を行き来できるということがそれぞれ相互の観光や農林水産業も含めた産業に不可欠なインフラだと思います。

私自身もずっと携わってまいりまして、スピードが上がらなくて申し訳ありませんでしたが、ようやく事業化ができたということで良かったと改めて思いますけれども、1日も早く完成できるように、この完成に向けて自分自身も一生懸命やれることをやっていきたいと思います。

道路の仕事を私も国交省時代にやりましたけれども、1歩1歩前へ動いてますので、いろいろな補正予算を獲得しながら進めることで完成に近づいてまいりますので、国が中心になって行うべき内容ではありますけれども、これからも着実な整備を私からも国の方に要請しますし、高知県さんの着実なフォローアップをお願いできればと思います。

（４）四国における鉄道ネットワークの維持と四国の新幹線の早期実現について

○ 濱田知事

続きまして4点目は、四国におきます鉄道ネットワークの維持と、鉄道の1部門としての四国の新幹線の早期実現につきまして、特に新幹線の問題については香川県さんには大変お骨折りをいただいておりますのでございまして、このテーマにつきましては池田知事の方から口火を切っていただければと思います。

○ 池田知事

はい。新幹線は濱田知事も同じ気持ちだと思いますけれども、1日も早いスタートが求められていると思います。今の四国の在来線ですけれども、私も濱田知事と前の総理のところへ一緒に行った時に土讃線はディーゼルなんですということを言ってですね、岸田前総理もそうだったかみたいなご発言だったんですけども、そういう状況なんですよね。それについてはもう何回も言ってるんですけど、国にも危機感を共有し、もっともっと強く要請しないといけないと思っております。

それからこの間、北海道の新幹線の完成時期がちょっと遅れるということで今課題になってますけれども、それでも2038年っていう年限であと13年。四国はまだルートの検討もできない、新駅の場所の検討もできない。在来線をどうするかもできない。こういう大きな課題が残ってますけど、ルートや駅や在来線の検討となると利害調整が伴うので時間がかかるんですけども、こういったものを1つ1つ地元の方と調整しながら早くやり始めないと、北海道に続いてというようなことがありますけれども、続いてとか重なってやりたいんですけど、続いてですと最後ですね。早くスタートを切らないと間に合わない、本当に待たなしの状況になってきていると思います。何とか今、窮状というか緊急的な状況を訴えないといけないので、一緒になって署名活動を始めて10万筆以上集まりましたけど、もっともっと100万筆ぐらいないと足りないかなというふうに思いますので、そういう声の見える化を急いで、国の方にスタートを切ってもらえるようにしていきたいと考えております。ぜひ一緒にこれからも取り組みをよろしく願いいたします。

それから在来線についてでありますけれども、今の土讃線もそうですが、これからもしっかりと維持、さらに今以上の利便性向上も1歩1歩やっていかないと、このままだとどんどん利便性も落ちてくる、そうすると益々利用者也減るという悪循環になると思うんですね。やはり乗客が増えるということは、乗る方も一生懸命乗らないといけないんですけど、施設のリニューアル、改善が不可欠だと思うんです。そして、線路で言うと、これは新幹線にも関係しますけれども、駅の一部であるトイレとかが、どんどん利用者を遠ざけるようなものになってくると悪循環ですので、ぜひこれから駅の施設、特にトイレとかを良くしていかないといけないと強く思っています。香川県内も、予讃線も土讃線もまだまだ汲み取り式のトイレがたくさんあります。なかなかJRも厳しいという中で、一部の駅は県でトイレの改修を行った、それからもう1つは市で行ったということが最近は出てきてるんですけど、そういうことも当然JRだけにお任せすることが難しい面も一方でありますけれども、JR自身もそういうところはもうしょうがないということではなくて、着実な改善をしていくように、県や市町と同時にJR自身も投資するということにぜひ舵を切っていただきたいということでこれまでお願いしてるんですけども、JR四国、四県一緒の問題ですから、一緒にお話をさせていただければと思います。

ちょうどJR四国の5か年推進計画というのが令和7年度が最終年度で、それを総括的に検証しようという動きがあります。その中でもこの話はしていきたいと思ひますし、やはり施設整備はやらないと悪循環するので、JR四国は国の全株会社でもありますから、国土交通省の鉄道局にも指導していただけるように、毎回お願いをしてるんですけども、一体となってJR四国の駅施設の改善を進められればと思いますので、またよろしくお願ひします。

○ 濱田知事

はいどうもありがとうございます。私の方から少しお話をさせていただければと思います。

最初に在来線の方のお話でございますけども、本県の場合、予土線というのを愛媛県との間で、JR四国の中で最も採算が良くないところを抱えてるんですけども、やはりこれについては国鉄の分割民営化の経緯に立ち戻って考えても、基本的には国の責任でしっかりと路線の維持、地域交通の維持を図っていただかないといけないのだろうということが基本だと思っておりますし、また今、池田知事から問題提起がございました施設のリニューアルという点も大変大事な視点ではないかと思ひます。

私どもの方で見ましても、地元の自治体が見るに見かねて支援をしてるというようなケースがあちこちであつたりしておりますけども、やはり基本的な施設は我々ももちろん必要な支援を惜しむべきではないと思ひますが、まずJR四国さんの方でしっかりとやっていただくべきものもあるんだろうというのは全く同感でございますので、お話のあり

ました5か年推進計画の総括検証といった中で、利便性向上とか利用促進施策について、足並みをそろえて議論させていただくということをお願いできればというふうに思います。

それから四国新幹線についても全く同じでございます、1つは地方創生を同じスタートラインに立って全国の各ブロックと競っていくための土台になる部分でもあると思いますし、南海トラフ地震対策を考えたときのリダンダンシー確保という点でも、少しでも早くこれの実現に向けて動いていきたいということは全く同じでございますので、今度の国土強靱化の実施中期計画で明確な位置付けをしていただくということもそうでありますし、お話がございました署名活動も高知県の方も精一杯頑張っまいりたいと思います。

そうした中で1日も早く、池田知事からもお話がございましたが北海道が先というのが国の話かもしれませんが、そうこだわらずにぜひ四国の方もできるだけ早く同時並行というようなことも含めて早期に着工し実現に向けていく。そのためにもまず法定調査を早くやっていただくということだと思いますので、この点も引き続き、香川県さんのご助言もいただき四国4県一緒になって国に対して熱意を伝えてまいりたいと思いますのでよろしくお願い申し上げたいと存じます。

（５）外国人観光客の香川・高知周遊促進について

○ 濱田知事

それから次の5点目のいわゆるインバウンド、外国人観光客の香川、高知両県での周遊を促進していくということについてに移りたいと思います。この点につきまして、私の方からまずお話をさせていただければと思います。

これまでも両県連携いたしました共同セールスなどをさせていただいておりますし、特にここ1、2年のところでは、高松空港に海外からの直行便が非常に多く就航していただいて、高松空港から四国に入るという形で外国人観光客の方が本県にも多く訪れていただいているということで、この点御礼申し上げたいと思います。

今年は特に、3年に1回の瀬戸内国際芸術祭の開催もあり、香川県さんの方に多くの外国からの観光客の方が例年以上に来られ、また万博もあるということだと思いますので、本県の場合は昨年4月から「どっぶり高知旅キャンペーン」と称しまして、高知にできるだけ長期滞在をしていただくというようなキャンペーンを打っておりますので、国際線で来られます外国人観光客の方々が両県を周遊していただく仕掛けづくりということを含めまして以上を協力させていただければありがたいと思います。

毎年2月ごろに両県共同で台湾で商談会を開催させていただいておりますので、こうした取り組みはもちろん今後も継続させていただきたいと思っておりますし、それぞれの空港を基点といたしました両県に跨るようなツアーの造成を含めまして以上をしていく、またお互いの魅力を紹介し合うというような形で連携いたしまして、両県 Win-Win の形でイン

バウンドの誘致にさらに力を入れていければと思いますのでどうかよろしくお願いいたします。

池田知事の方からも一言お願いいたします。

○ 池田知事

はい。高松空港の国際線についてはコロナの前以上の便数になりまして、おかげさまで利用者もコロナ前を上回る状況になってまいりました。そして高松空港が行った調査でも、例えば台北線、台湾との間がいつも一番行き来が多いんですけども、旅行客はやはり四国全体を周遊するという方がほとんどで、14%を超える人が高知県を訪れているというような状況でございますので、これからも、距離からしても、また瀬戸内と太平洋というかなり色彩の違う魅力という意味においても、もっともっと香川・高知という周遊のPRを台湾はもとよりいろいろな国にさらに力を入れたいと思います。今おっしゃっていただいた台湾の商談会も、今年2月24、25日と行いましたし、中国に向けても昨年の年末に行いました。これからもそういったことを継続していきたいと思えますし、今、オンライン上のいろんなキャンペーンもありますけれども、高知、香川両県の周遊についてのオンライン上での発信にもさらに力を入れていきたいというふうに思います。これからも両県の周遊の拡充に取り組みますので、引き続きよろしくお願いいたします。

(6)「四国遍路」の世界遺産登録について

○ 濱田知事

ありがとうございました。続きまして6点目の四国遍路の世界遺産登録に向けての活動についてでございます。このテーマにつきまして池田知事の方からお話いただければと思います。

○ 池田知事

四国遍路の世界遺産登録に向けて、四国4県協力して進めております。文化庁の方が国内暫定リストの見直しに向けたワーキングをちょうど1年前に設置して検討が進められております。

前回、もう10年以上前になりますけれども暫定リストが見直されたときに、四国遍路は次点の最上位になっていたわけですが、今度はぜひこの暫定リストに掲載されるように4県で力を合わせて取り組みたいというふうに考えております。

もともと、前回次点になったときからの課題が3つありまして、1つはこの四国遍路が世界遺産にふさわしいという「普遍的価値の証明」ですけども、世界の中でここしかないというもの、これはお接待の文化ですとか、同行二人の文化ですとか、こういうところが中心になってくるのではないかなというふうに思います。世界でも巡礼の道はス

ペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラだというのがありますがけれども、同行二人とかお接待という文化は四国遍路が突出しているという専門家の指摘もありますので、ここはしっかりと訴えていく必要があると思っています。

それから2つ目はですね、世界遺産というのは元々が保全のための措置ですから守ることが第一目的。何を守るんだということで守るべきものを特定してしっかり守られるべき制度をつくらないといけないということで、お寺の史跡指定でありますとか遍路道の史跡指定でありますとか、こういったものを挙げられておりました。これも4県力を合わせて取り組んだ結果、特にお寺についてはですね、もともと88のうち55がもともとからのお寺で、残り33は建て替えられたりして、もうちょっとそういう対象ではないんですけど、55の中で半分以上は少なくとも史跡指定がいるんだというようなお話が文化庁からもあって、皆さん4県で力を合わせた結果、ノルマと言いますか、それはクリアしてきており、そこは評価を受けているところかと思います。引き続きこれもさらに増えるようにですね、お寺にも史跡指定があるということは良い面もありますけれども、お寺の改修の時に制約がかかったりいろいろ義務の部分が出てくるものですから、理解を得るのが結構大変と言いますか重要なんですけれども、そこを粘り強く一緒に取り組んでいきたいと思っています。

それからもう1つですね、お遍路道について、昔ながらの山の赤道みたいなのも一部ありますけれども、今すでもう県道だったり町道だったり日常の道になってるところの方が多いわけですけど、それでもそういう道をお遍路道としてしっかり守るということにもぜひ取り組んでほしいという話が文化庁からも来ておりまして、方法として文化庁から示されているのは景観法という法律が国交省の法律でありますけれども、その中で景観重要施設という枠組があって、そういうものにこのお遍路道を指定して、お遍路道としての風合いを保つような取り組みを、県だったり町だったりしますけれども、それぞれの管理者が取り組んでいくというような取り組みを始めるべきじゃないかという指摘もありまして、これはすぐにできることではありませんが、スタートしていくことも重要だと思いますので、4県で相談しながら進捗させていただきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願いします。いずれにしても冒頭申しましたように、前回次点でその間にいろんな進捗をしておりますし、十分暫定リストにふさわしいものであると考えておりますので、一緒になって暫定リストの登録を実現できるようにしたいと思います。引き続きの連携した取組をお願いいたします。

○ 濱田知事

ありがとうございます。私の方からほとんど付け加えることはございませんが、簡単にお話ししますと、今、池田知事から3つの課題ということでお話がありまして、今後本県含め4県が力を合わせ、お寺とか遍路道の史跡指定、そういった保護措置ですとか「普遍的価値の証明」に向けて努力させていただいて着実にできているということだと

思いますし、新しい課題として景観の選定の取り組みにも着手するという課題が出てきていると思います。この点もまた4県で相談させていただきながら前へ進めていければと思います。機運醸成についてもいろんな形で本県も努力させていただいておりますし、冒頭お話のありました暫定リストにできるだけ早く記載をしていくということに関しまして、今まで以上に四国知事会などを通じ国に積極的に働きかけを行っていくべきタイミングだと思いますので、我々としても、香川県さんをはじめといたしまして関係者と力を合わせて取り組みたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いを申し上げます。

4 PR項目

○ 濱田知事

それでは、6項目についての意見交換が終了したということでございますので、両県からのPRの時間ということで、まず池田知事の方から。

○ 池田知事

今週18日に、いよいよ3年に1度の瀬戸内国際芸術祭2025が開幕いたします。今年で6回目になるんですけれども、過去最大規模になります。会場もこれまで島だったんですけれども、本土側の志度とか津田とか引田、それと瀬戸大橋がついてる宇多津、こういった会場も追加になりまして、アーティストの数も最大になります。

ぜひ、高知県の方にもお見えいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

○ 濱田知事

ありがとうございます。そうしましたら本県の方からも手短に、冒頭申し上げました連続テレビ小説「あんぱん」の放送に合わせて、高知の魅力をもっと深く、じっくりたっぷりと長期滞在していただくという観光キャンペーン「どっぶり高知旅キャンペーン」をしております。地域博覧会なども開催中ですので、ぜひ香川県の皆様にもこの機会に高知にお越しいただきたいと思っておりますし、お話がありましたように3年に1回の芸術祭、ちょうど今年は万博の年でもありますから、県外、四国外からの方々の誘客を連携してぜひ力を合わせてお互いいい方向にいくように協力させていただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは以上で予定しておりました項目がすべて終了いたしましたので、進行を司会の方にお返しいたします。

池田知事、大変有意義な意見交換をありがとうございました。

5 閉会

○ 司会

ありがとうございました。以上をもちまして、第9回高知・香川両県知事会議を終了いたします。円滑な進行にご協力ありがとうございました。

共同記者会見

○司会

それではここからは、共同記者会見としまして、引き続きこの場で記者の方からのご質問をお受けしたいと思います。質問される記者の方は挙手をしていただきましたら私が指名いたしますので、社名とお名前をご発言のうえ質問をお願いいたします。どの方からでも結構でございます。

○ 記者 高知新聞社 谷川

高知新聞の谷川と言います。両県にとって今回が9回目の知事会議ですけれども、今回国土対策とか、国土強靱化に関して国の方に政策提言をしていこうというお話だと思うんですけど、改めて今回の知事会議での成果と思われるところについてお言葉をいただきたいと思います。

○ 濱田知事

まず私から。お話がございましたように今回の提言の中で、1つは人口減少対策という文脈での国土政策、大都市機能の地方への移転ということを政府は本気でやってほしいと。石破内閣になりまして、その点は随分と変わってきているという印象はありますけれども、やはりこれは政治のリーダーシップで進めていかないとなかなか役所だけでは尻込みしてしまうテーマだと思いますので、これを政治のサイドから後押ししていく、地方から声を上げていくという意味で、両県大きな方向性が一致できたのは大変意義がある会議ができたというふうに思います。もう1つ、国土強靱化に関しましては各論的なものも含めて、南海トラフ地震対策などを考えたときも、財源の確保ができませんとインフラ整備は現実には進みませんので、この点非常に、公務員時代のご知見をお持ちの池田知事からもお話をいただいて、しっかりした中身でですね、国に対して提言を作っていこうということでこれも一致できましたことは大変有意義な会談ができたというふうに感謝をいたしております。

○ 池田知事

いよいよ今後、特に令和8年度に向けての政府への要望をするタイミングでありますし、今の物価高も踏まえた経済対策ということを議論するタイミングでもあります。そのタイミングでこの地方の代表的な我が県、高知県が一緒になって、強く要望していく部分、医療などの確保に対しての国の助成、防災対策に対しての助成の強化、それから国土政策、産業拠点の地方への展開についての国の施策の推進、こういった重要な観点

について、国への要望のポイントの共有ができた。これが一番大きいことではなかったかなと思います。

○ 記者 時事通信 栗原

時事通信の栗原です。税の偏在性について濱田知事がおっしゃっていましたが、その解消に向けては、まず子育て政策の面でアプローチしていくという考えでよろしいでしょうか。

○ 濱田知事

はい。問題としては一応2つは別の問題だと思っていますが、税の偏在にいくまでの問題として、今現実には大都市の自治体で、非常に税源が豊かなところが財政力に物を言わせる形でいろんな子育ての経済的支援、医療費とか保育、教育費の問題も含めてありますが、かなり大都市部で手厚い支援をしていくと。そうするとますます大都市への人口集中が進みかねないという状況になっていますので、これを財政力にかかわらず、国民どこに住んでいても基幹的なサービスは水準統一すべきだと。これが1つの大きな論点だと思います。

そういう格差が出てきている背景が、最近の税源の大都市部への集中で、経済のデジタル化が進んでいわゆるG A F Aなどがどんどん稼いでいくとなりますと、国内の税收構造で見ると、税收が今まで以上に大都市部に集中している。これを直さないと、そういう行政サービスの格差というところの根本的な手当ができないんじゃないかということがありますので、先ほどの経済的支援の全国一律化ということとあわせて、その必要性が出てきている原因となっている税源の偏在問題にも手をつけてもらいたいというお話を国に対してぶつけていくというような文脈になるかと思います。

○ テレビ高知 山口

テレビ高知の山口と申します。ありがとうございます。池田知事に質問があります。新幹線の署名活動の件についてなんですけども、両県が連携して署名活動して国に声を届けるということで、その署名活動自体は国に対して有効なものになるのでしょうか。その辺りについてちょっと詳しく教えていただければありがたいです。

○ 池田知事

新幹線は、やるとしたら国策で進める政策であると思います。国の政策判断が必要です。国の政策判断というのは、やはり特に関係する地元の方がどのぐらい必要と思っているか、緊急であると思っているかということが最もベースになる部分であると思いますので、それを形にするという意味においてこの署名というのは非常に有効な手段であると思います。

○司会

そのほかにご質問ございますでしょうか。

それでは、これで共同記者会見を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。